

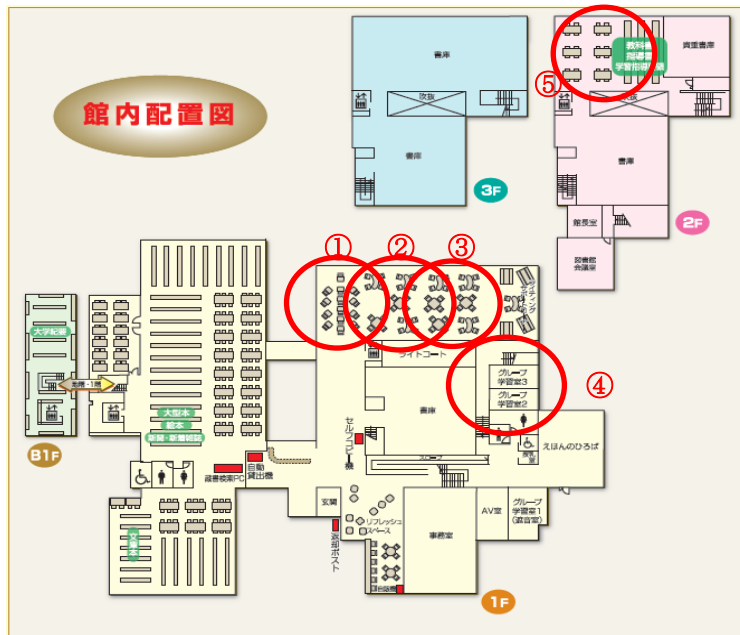
M2 学位研究報告書中間発表会プログラム

日時：平成29年6月21日（水）

場所：奈良教育大学図書館

タイムスケジュール

- 9:45-10:00 開始の挨拶
- 10:00-10:45 第1セッション
- 10:45-10:50 休憩・移動
- 10:50-11:35 第2セッション
- 11:35-11:40 休憩・移動
- 11:40-12:25 第3セッション
- 12:25-12:35 終了の挨拶



第1セッション(10:00-10:45)

会場	テーブル番号	発表者	題目
コモンズ①	1	浪越 一浩	思考力を育成する理科授業に関する研究 -カリキュラムマップの開発と活用から-
	2	竹綱 秀起	アニメーション的手法を用いた学習指導法の創造 -文学的文章を通して-
			ファシリテータ：小柳和喜雄教授
コモンズ②	3	岡村 元太	へき地・小規模校におけるICT機器を活用した授業実践に関する研究 -生徒にとってわかりやすい授業に着目して-
	4	崎尾 豊武	児童に参加を促す周囲のかかわり -居場所づくりを手がかりに-
			ファシリテータ：吉村雅仁教授
コモンズ③	5	古川 将寿	教科横断的な防災教育カリキュラムの開発 -コアチームでの活動を手がかりに-
	6	清水 保宏	高等学校における授業改善の取り組みについての研究 -教科内での協働を手がかりとして-
			ファシリテータ：山本吉延教授
グループ学習室④	7	中村千佳子	児童自らストレスをマネジメントする力を育てる保健教育に関する研究
	8	柳澤 純也	中学校社会科・歴史における写真及び資料を用いた学習意欲喚起する授業モデルの実践(ICT機器を通して) -中学校2学年の生徒を対象として-
			ファシリテータ：粕谷貴志教授
教科書コーナー (2階) ⑤	9	川端 夕貴	中学校キャリア教育における「基礎的・汎用的能力」をはぐくむ授業実践
	10	田口カノン	生徒に共感性を育成する指導・援助の方法の検討
			ファシリテータ：中澤隆志准教授

第2セッション(10:50-11:35)

会場	テーブル 番号	発表者	題目
コモンズ①	1	橋本 泰介	教員集団の学びと実践の変容を目指した実践研究 - 省察を用いた小学校学年部の授業研究に着目して -
	2	北川 春花	高校古典における生徒の主体的な学びを目指した授業づくり - 自己探求文を書くことを通して -
ファシリテータ：小柳和喜雄教授			
コモンズ②	3	国元 穂高	問題解決を促す社会科の授業づくり - 「社会的見方・考え方」の育成を目指して -
	4	田口 貴博	興味関心を高めるICTの活用 - 小学校5年生の理科を通して -
ファシリテータ：吉村雅仁教授			
コモンズ③	5	坂本有里紗	知的障害児教育におけるICT活用について - ハンドブック開発と授業実践 -
	6	向本 幸	幼児期から児童期へのスムーズな移行への取り組み - 「遊び」の中で行う不器用さへのアプローチ -
ファシリテータ：根來秀樹教授			
グループ学習室④	7	福田 萌	全体と個別に対するいじめ予防プログラムの開発とその検討
	8	中浦 涼	感情を抑制している子どもへの援助方法の検討 - 「よい子」に着目して -
ファシリテータ：粕谷貴志教授			
教科書コーナー (2階)⑤	9	中村あとむ	小学校道徳教育における命の学習に関する授業開発
	10	武藤加那子	小学校における学校給食指導の在り方に関する研究
ファシリテータ：中澤隆志准教授			

第3セッション(11:40-12:25)

会場	テーブル 番号	発表者	題目
コモンズ①	1	巽 俊也	授業における小集団の学びが学級に及ぼす影響に関する研究 - 小学校体育科からのアプローチ -
	2	岩田 茉緒	インクルーシブ教育のための教育実践 - 小学校3年生の道徳などの授業を通して -
ファシリテータ：小柳和喜雄教授			
コモンズ②	3	西 眞輝	高等学校における課題解決的な学習経験と教科指導(日本史B)の関係について
	4	岸本 梨那	中学校家庭科教育における生活実践力育成につながる授業開発 - 電子レンジの活用に焦点をあてて -
ファシリテータ：吉村雅仁教授			
コモンズ③	5	中川 聡之	認知特性に応じた書字支援 - 通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒への効果的な支援方法の検討 -
	6	山中 伸子	特別支援学級に在籍する児童に対するICT機器活用と学習支援 - 苦手が「楽しい」「やってみたい」に変わる指導の一事例 タブレットPCを活用した学習指導開発 -
ファシリテータ：根來秀樹教授			
グループ学習室④	7	田中 美沙	教師との協働でおこなう不登校生徒支援についての研究 - 別室指導での不登校生徒支援を通して -
	8	谷口 和也	生活習慣改善における疲労の軽減を目的とした健康教育プログラム開発
ファシリテータ：粕谷貴志教授			